

諸田實先生定年退職記念号に寄せて

経済学部長 池 上 和 夫

諸田實先生は、平成十一年三月三十一日付けをもって本学を定年ご退職されました。

先生は静岡県静岡市にお生まれになり、昭和二七年東京大学経済学部を卒業後、引き続き同大学大学院に進学され、大学院を終了された後、直ちに福島大学経済学部にて赴任されました。昭和四〇年四月、経済学部の分離・独立にあたり本学経済学部教授として迎えられ、以来三四年の長きにわたって経済史やゼミナールを担当されるなど経済学部の研究教育のために尽力してこられました。

経済史家として夙に令名の高い先生のご研究は、主に一六、一九世紀のヨーロッパ社会経済史、特にドイツ社会経済史研究が中心であり、一五、一六世紀の南ドイツを中心に展開したドイツ初期資本主義を封建制から資本主義への移行過程の中に位置付け、その歴史的意義の再検討を試みた、学位論文『ドイツ初期資本主義研究』、経済的後進国ドイツが急速に発展した時代に焦点を当てた、『ケルップ』、『ドイツ関税同盟の成立』、南ドイツの商人・銀行家が活躍した時代や社会を描いた、『フッガー家の遺産』、『フッガー家の時代』など著書多数にのほり、また、M・ウェーバーやJ・クーリッシエルのヨーロッパ経済史に関する膨大な著作の翻訳にあたられるなど、その緻密にして厳密な

研究によって学会をリードされ、また後進に多大な影響力を与えてこられました。

昭和四〇年、先生が本学に着任された時期は大学の発展期であり、この年、本学に外国語学部が新設されるとともに法経学部が経済学部と法学部に改組されて経済学部が独立し、引き続いて大学院経済学研究科が創設された時期でありました。以来三四年にわたる先生の本学での研究教育の歩みは、経済学部、大学院経済学研究科の歩みそのものであったと言っても過言ではありません。この間、経済学部長、図書館長、教務部長、大学院経済学研究科委員長、評議会評議員などを歴任され、経済学部のみならず大学全体の発展にとっても多大なご貢献をなされたことは周知のことです。

人を引き付けずにはおかない清廉で温厚なお人柄と高い見識を持つ先生が、ご定年とはいえ退職されることは真に残念ではありますが、名誉教授になられたご退職後も非常勤講師として引き続き学部教育のためにご尽力を戴ける事になったのはせめてもの慰めであります。

ここに、先生の長年にわたるご苦勞に改めて心から感謝申し上げます。先生が今後ともますますご健康で、色々にご指導下され、また最終講義においても取り上げられたフリードリッヒ・リストの研究など、ご研究の発展のためにご活躍下さいますように心からお祈り申し上げます。